

I N D E X

BioJapan2013 開催報告

日本バイオインフォマティクス学会 (JSBi)2013 年年会 JBIC 出展のご案内
次世代天然物化学技術研究組合ホームページ開設のお知らせ

BioJapan2013 開催報告

2013 年 10 月 9 日 (水) ~ 10 月 11 日 (金) の 3 日間にわたって「BioJapan2013」が
パシフィコ横浜で開催されました。展示会出展者数は 479 社、パートナーリング
参加企業数は 607 社、パートナーリング参加者数は 1,054 名、来場者数は 12,487
名と前回よりも大幅に増加し、非常に盛況でした。

今回の特徴は、昨年と比べて海外からの参加者が倍増したことです。上記の
内訳として、海外からの出展者数は 129 社 (昨年は 51 社)、海外からの
パートナーリング参加者数は 237 名 (昨年は 106 名) でした。海外からの参加者は、
展示会への出展よりもパートナーリングの方に力を入れていたようです。また、
国内外の大手中堅製薬会社が軒並み参加し、アカデミアの出展も過去最大 (63
大学・機関) となりました。

セミナーはアネックス会場および展示会場にて非常に活発に行われました。
その数は 143 セッションに上り、スピーカーも 316 名になりました。また、各
展示会場の各パビリオンにおいても連日プレゼンテーションが行われました。
また、展示会終了後に、初日にはレセプション・パーティーが、二日目には
パートナーリング・パーティーが行われました。特に、二日目のパートナーリング・
パーティーは、パシフィコ横浜の近隣にある横浜美術館で開催され、海外から
の参加者も多く、国際色豊かなパーティーとなりました。

BioJapan は、今後もアジア最大のパートナーリングイベントとして、さらに規模
を拡大していくと思われます。

(一般財団法人バイオインダストリー協会 BioJapan2013 開催報告より)

JBIC ブースでは、JBIC が実施、参画しているプロジェクトの概要やこれまでの
研究成果についての紹介、JBIC 会員企業による展示等を行いました。また、JBIC
ブースにて連日ミニプレゼンを行い、講師の先生方をお招きしてプロジェクト
に関連する内容の発表や JBIC 会員企業による発表を行い、大変盛況な 3 日間と

なりました。

JBIC ブースにお立ち寄りいただいた多数の皆様、誠にありがとうございました。

初日のミニプレゼンでは、産総研 新家一男先生に天然物ライブラリー関連の話題をお話ししていただきました。

現在、製薬企業等が所有する天然物ライブラリーの提供を受けて約30万の世界最大級の天然物ライブラリーが整備されています。保有する天然物

ライブラリーのほとんどは微生物からの抽出物ですが、海洋産物からの抽出物や、単離された天然化合物、さらには天然物の誘導体や、合成化合物の中でも

各種阻害剤などを集めたライブラリーも保有しています。今年度より開始された経済産業省プロジェクトにて、次世代型有用天然化合物の生産技術開発に関する研究開発を行っており、天然化合物を安定的かつ効率よく発現させる手法を高度化させています。

また、本プロジェクトに関連して、オーピーバイオフィクトリー(株)殿と日本マイクロバイオファーマ(株)殿からも事業内容をお話ししていただきました。

二日目のミニプレゼンでは、福島県立医大 渡辺慎哉先生に福島医薬品関連産業支援拠点化事業の話題をお話ししていただきました。

この事業は、福島県立医科大学等で取得される臨床サンプル及び各種情報等を利用し、医療界と産業界を橋渡しすることにより、がんを中心とした検査・診断薬及び医薬品等の開発を多面的に支援することで、医薬品開発等の新規産業の創出、企業の誘致、及び雇用の創出を促進することを目的としています。

福島県立医科大学は、収集した各種疾患に由来する細胞・組織から、マイクロアレイを用いて遺伝子発現プロファイルを取得し、「疾患関連細胞・組織遺伝子発現アトラス」を作成しています。このアトラスに対してクラスター分析等のデータ解析が行なわれ、疾患に関連する遺伝子がリストアップされています。

最終日の三日目のミニプレゼンでは、産総研 五島直樹先生にヒト完全長 cDNA リソースの活用から再生医療への展開の話題をお話ししていただきました。

ご存じのように、iPS細胞は再生医療等の多方面での応用が期待されています。iPS細胞を作製するために4つの転写因子(Oct3/4, Sox2, Klf4, c-Myc)を従来は導入していましたが、原がん遺伝子 c-Myc による腫瘍発生が懸念され、安全な iPS細胞を効率よく誘導する方法の開発が望まれていました。NEDO プロジェクト「タンパク質機能解析・活用プロジェクト」において開発したヒト完全長 cDNA を基盤とした汎用ヒトタンパク質発現リソースを用いて探索された新規転写因子 Glis1 は、c-Myc なしでも、iPS細胞を非常に効率よく誘導することが分かりました。産総研とJBICは今年度採択されたJST再生医療実現拠点ネットワークプログラムにて、再生医療に関わる遺伝子の拡充により、このヒトタンパク質発現リソースを強化致します。

また、本リソースの活用に関連して、(株)セルフリーサイエンス殿とiPS
アカデミアジャパン(株)殿からも活動をお話ししていただきました。

また連日、IT創薬関連の話題を、(株)バイオモデリングリサーチ殿/(株)
フィアラックス殿/(株)京都コンステラ・テクノロジーズ殿からも事業内容
をお話ししていただきました。

JBICからの話題提供としては、二日目のミニプレゼンで、ドラッグ
リポジショニングについての紹介と米国NIHの取り組み、さらに日本でのJBIC
の取り組みについてお話しさせていただきました。

来年のBioJapan2014は、2014年10月15日(水)~10月17日(金)にパシフィコ
横浜で開催されます。同時開催として、BioOpto Japan 2014(光+バイオ・医療
の専門展)も開催されます。来年のテーマ案は「進化しつづけるバイオ産業」の
予定で検討中です。
来年も皆様のご来場をお待ちしております。

日本バイオインフォマティクス学会(JSBi)2013年年会 JBIC 出展のご案内

日本バイオインフォマティクス学会(JSBi)2013年年会が2013年10月29日
から31日まで、タワーホール船堀(東京都江戸川区)において、CBI学会・
オミックス医療研究会と合同の生命医薬情報学連合大会という形で開催され
ます。今年度の大会テーマは「オミックス・計算・そして創薬」となっており
ます。

JBICではブースを出展し、下記プロジェクトの概要やこれまでの研究成果に
ついてご紹介します。

展示内容

- ・次世代天然物化学技術研究組合：
天然物ライブラリーの相互利用
ITを活用した革新的医薬品創出基盤技術開発
- ・分子シミュレーションシステム:myPresto

生命医薬情報学連合大会の詳細については、下記のJSBi及びCBI学会のホーム
ページを参照ください。

JSBi 2013 年年会 : <https://jsbi2013.hgc.jp/>

CBI 学会 2013 年大会 : <http://cbi-society.org/taikai/taikai13/>

「JSBi 2013 年 年 会 」へお越しの際は、JBIC ブースへも是非お立ち寄り
ください。

皆様のご来場をお待ちしております。

次世代天然物化学技術研究組合ホームページ開設のお知らせ

JBIC も参加している技術研究組合で、ホームページを下記のとおり公開
しました。

今回公開しました組合ホームページでは、組合の概要および天然物
ライブラリーとその相互利用の仕組みについて紹介しています。

HP アドレス : <http://www.natprodchem.jp/>

ご興味がある方は是非ともアクセスしてください。

=====

「JBIC 会員企業からのご案内」の項目を設けております。

JBIC 会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。

なお、掲載の可否については JBIC 事務局にて判断させていただきますので予めご了承ください。

JBIC に関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/contact/>

=====

配信中止、変更はこちらから。

<http://www.jbic.or.jp/news/mailmaga/>

=====

発行 : 一般社団法人 バイオ産業情報化コンソーシアム

JBIC めるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

=====

Copyright(c) 2013 JBIC. ALL rights reserved.